

特別展

江戸小紋と型紙

極小の美の世界

1999年8月10日(火) - 9月26日(日)

斜取り小紋合わせ染め小袖(部分)
大正時代 京都文化博物館蔵

休館日

8月16日(月)、23日(月)、30日(月)
9月6日(月)、12日(日)、13日(月)、16日(木)、20日(月)、24日(金)

開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料

一般 300 円(240 円)、小中学生 100 円(80 円)

65 歳以上の方及び障害者の方は無料。

() 内は 10 名以上の団体料金。

第二、第四土曜日は小中学生無料。

渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL03-3465-9421

京王井の頭線神泉駅下車徒歩 5 分 JR 渋谷駅下車徒歩 15 分

型紙を使って着物の文様を染める技法を型染めといい、我が国に古くから伝わる技法の一つです。型紙などによって染めた細かい文様を小紋といい、ゆかたなどに用いられた中型と対比されます。江戸時代に武士の袴（かみしも）などの礼装に小紋が用いられ、各藩は独自の小紋、いわゆる定め小紋（留柄）を考案し、競って精緻な小紋柄を発展させました。江戸中期には、小紋は町人の間にも普及し、明治・大正・昭和へと受け継がれていきます。これらの小紋柄の着物を昭和以降しだいに江戸小紋と呼ぶようになりました。

柿渋加工の和紙に彫刻刀で彫り上げた型紙は、江戸時代おもに、伊勢、鈴鹿の白子、寺家村を中心に製作され、紀州藩の威光のもと有利に全国に独占販売されました。各地に数多く伊勢型紙が残されていますが、江戸型、京型、会津型など地域的特色のある作品も一部見られるようです。残された型紙を見ると、人間技とは思えない極小さに驚くとともに、縞、幾何学模様、花鳥風月模様など無限の文様の宝庫となっています。

明治から戦後まで、欧米からもたらされた合成染料と洋服の

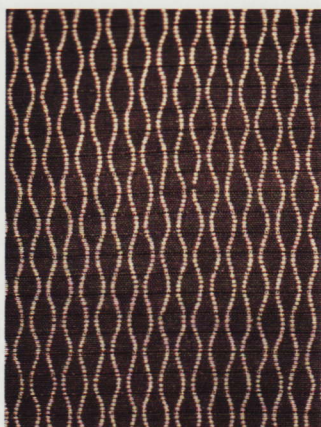
普及にともない、全国の村々に一軒はあった染屋、紺屋が廃業に追い込まれ、それとともに蓄積された膨大な枚数の型紙も大部分が廃棄され失われていったのです。

幕末から明治にかけて来日した欧米の文化人によって、型紙はパリ、ウィーン、ロンドン、ボストンなどへもたらされ、当地で驚きをもって迎えられました。型紙の斬新な模様は欧米の新しい美術運動に刺激を与え、デザイン教育に取り入れられるなど多大な影響を与えましたが、日本ではこれまで、その重要性が認識されることはほとんどありませんでした。

本展は小紋の着物と型紙によって日本的文様美の洗練と多様性を紹介するものです。これまでの展覧会では型紙を中心としたものが多く、小紋の着物は遺品が少ないためあまり紹介されていませんでした。今回は家康所用の初期小紋の着物、各藩の袴、町人の着物、明治・大正・昭和の着物約70点を長板中型のゆかたとあわせて出品し、全国の代表的な型紙約200点に加えて、染め見本帳や歴史的資料などあわせて300余点の作品により、江戸小紋の美と歴史にせまります。



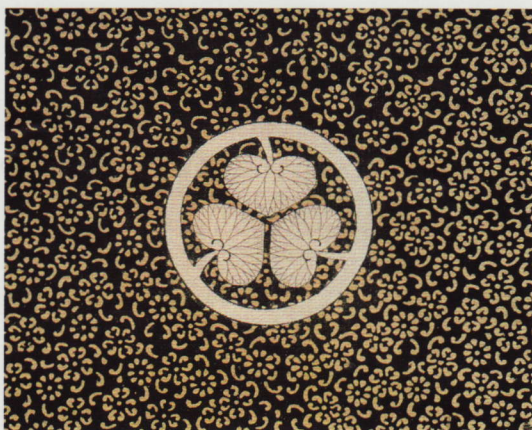
徳川家康所用 小紋胴服（重要文化財）日光東照宮蔵



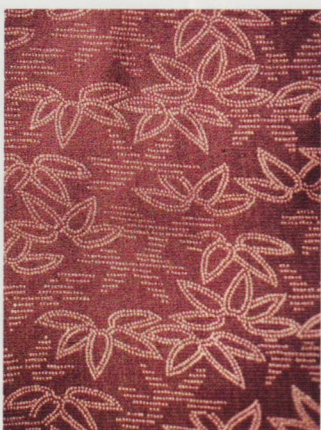
小紋着物（部分）江戸東京博物館蔵



小紋・中型型紙（部分）鈴鹿市教育委員会蔵



同（部分）日光東照宮蔵



同（部分）江戸東京博物館蔵



同（部分）鈴鹿市教育委員会蔵



同（部分）鈴鹿市教育委員会蔵

講演会

9月4日(土) 午後2時～4時

鼎談「きもの文化の中の江戸小紋と型紙」

大滝幹夫(文星芸術大学教授)

長崎 蔵(東京国立博物館染織室長)

福井泰民(当館主任学芸員)

映画会

8月21日(土) 午後2時～4時 NHK シルクロード「覇王への道」

9月19日(日) 午後2時～4時 NHK シルクロード「秘境ラダック」

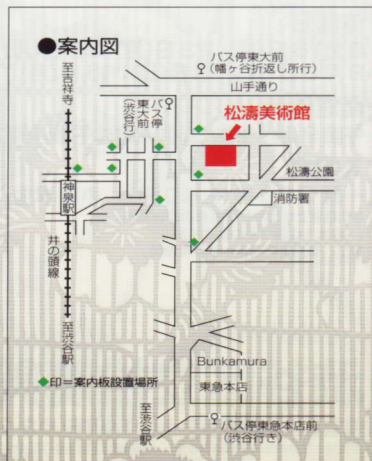
美術相談

8月14日(土) 午後2時～4時 内山 懋(油彩) 新出紀久雄(水彩)

9月11日(土) 午後2時～4時 茂登山東一郎(油彩) 醍醐芳晴(水彩)

渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL03-3465-9421



JR 渋谷駅下車徒歩 15 分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩 5 分